

(2) 第12回ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会 プログラム

開催地：クラクフ&カトヴィツェ（ポーランド）

開催日時：2018年6月12日～15日

プログラム

2018年6月12日から15日にかけて、第12回ユネスコ創造都市ネットワークUNESCO Creative Cities Network UCCN年次総会が、認定都市のクラクフとカトヴィツェ（ポーランド）で開催される。「創造のクロスロード（交差点）“Creative crossroads”」が今年の会議における共通テーマであり、認定都市の地域的・国際的な行動を推進し、ネットワークの核である協働精神を称える。創造分野、地域、規律の違いを越えて、革新的な協働を促進することは、今年の会議における共通の大望である。アイデアを共有し、結びつけ、協働で考案するよう認定都市を促すため、テーマに関連したワークショップから多分野に渡る会合にいたるまで、革新的な相互作用の形が提案される。そこでは共同の新しい試みを反映するため、認定都市が創造的意見を出し合うことが可能である。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に向けて認定都市の地域的・国際的な努力を合理化することは、ネットワークの戦略的構想の主要目標であるとして、2017年7月に承認された。「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、地球規模の目標に対して、文化創造に関する地域活動力を証明するための入り口を提供している。ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）は、都市が「17の持続可能な開発目標」を実行する多くの革新的な方法を披露するための、重要かつ目に見えるプラットフォームとしてすでに世界的に認識されている。認定都市は多数のテーマに関連した新しい構想を通じて地域で革新し、事務局はこれらの革新的な経験を記録し表明するため、Lab.2030構想に着手した。この蓄積した知識を発展の土台にすることが今年の総会の中心となり、創造的分野のワークショップでも取り込まれるだろう。

より持続可能で包摂的な都市への道筋作りは疑う余地なく困難な挑戦であり、世界中の都市社会と経済における重要な変化を予測するために決定的で積極的な政治的関与や、地方自治体と創造的コミュニティ間の活発な協働だけでなく、先見的で創造的な思考が必要である。

我々はどのようにして社会的な団結と異文化間の対話をより活性化させ、都市において文化的多様性を認めることができるだろうか。どのようにデジタル時代が、我々の働き方、生産方法、相互作用の仕方に影響を与えるだろうか。

どのように地球の未来への世界的懸念が、都市コミュニティに生産と消費パターンを再考するよう駆り立てるだろうか。どのように文化と創造が都市生活の質を改善することができるだろうか。これらの非常に重要な問題は、2018年のユネスコ創造都市ネットワーク年次総会の議論の中心となるだろう。

(3) 第12回ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会 結論

我々ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）の加盟都市は、ポーランドのクラクフとカトヴィツェ主催の2018年年次総会のため集結し、開催都市のもてなしに感謝の意を表すとともに、ユネスコの使命と価値の認識を再確認し、UCCNの使命と目標を誓い、「持続可能な開発目標」、特に、文化主導の持続可能な都市開発のために国際的コミュニティ内で大きな活力を求め「ゴール11」に携わり、議論を交わし、以下の項目に合意した。

1. UCCNは、都市での持続可能な開発に向けて革新的なアイデアを出し、それを実行するための都市研究所を運営する世界的ネットワークとしての立場を再確認する。

文化的交差点と世界的な創造の中心として、当ネットワークは先の年次総会で認定都市に承認されたUCCNの戦略的構想を介して、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」と「ニュー・アーバン・アジェンダ」をネットワークの指針とする。
2. 加盟都市は、文化創造分野の世界規模の急速な発展の勢いを歓迎し、デジタルや人工知能、持続可能な参加型観光事業、新興巨大都市、地方都市ネットワーク、品質教育、そして特に女性と若い世代のための起業家活動を含む、文化創造分野における主な傾向と優先事項を承認する。加盟都市はこれらの分野で、他の認定都市と共に特に国際的な繋がりを通じ、資源への投資と地域の経験、ノウハウの共有に携わる。
3. 加盟都市は、ユネスコとUCCNの価値とビジョンに深く関わり、地域レベルでの持続可能な開発の先駆けとなっている。認定都市は、ユネスコとUCCNのDNAの一部としてそれらのビジョンに文化を統合し、地域の人々に価値を伝え、創造分野の変動的な可能性について認識を育み、文化の力を備えた持続可能な開発において地域の政治的関与を促すために集められる。
4. 加盟都市は都市間の協調関係と協力を促す重要性のみならず、UCCN年次総会におけるサブネットワーク会議の相補性を承認する。サブネットワーク会議は、新たな加盟都市の統合をさらに促進するために補強されなければならない。事務局は、各加盟都市に2年ごとの年次総会の周期で、少なくとも1回または2回の正式なサブネットワーク会議を開くことを促し、それらの会議の概念化、組織化、そして成果に関する主な情報を事務局への周知するよう促す。
5. UCCNステアリンググループ（SG）は事務局と認定都市のコミュニケーションを強化するために、また、ネットワークとサブネットワークレベルの両方の活動への認定都市の参加を促進するために、中国の成都で開催された第8回年次総会で設立された。ステアリンググループは可能な限りあらゆる地域が代表を務めるよう構成される。代表の公平性を強化し、ステアリンググループの継続性を保証することを意図して、ステアリンググループのメンバーは2年間の任期を最大2年連続で勤める資格があり、副コーディネーターは最初の2年間の任期の後、コーディネーターの役割を引き継ぐことが推奨される交替制が前年の年次総会で提案された。この度の年次総会での議論の結果、この交代制は認定都市により承認され、直ちに第2回のステアリンググループの更新に反映された。
6. 加盟都市は、第2回ステアリンググループの更新が、この度の年次総会で行われたことに言及する。結果として、新たなコーディネーターは以下の通りである：

【クラフト&フォークアート】
コーディネーター：利川
副コーディネーター：パデューカ

【デザイン】
コーディネーター：デトロイト
副コーディネーター：コルトレイク

【映画】
コーディネーター：シドニー
副コーディネーター：サントス

【食文化】
コーディネーター：パルマ
副コーディネーター：エンセナーダ

【文学】

コーディネーター：ノッティンガム

副コーディネーター：リュブリャナ

【メディアアート】

コーディネーター：アンギャン・レバン

副コーディネーター：光州

【音楽】

コーディネーター：マンハイム

副コーディネーター：カトヴィツェ

次回の年次総会の開催都市でステアリンググループ加盟都市のファブリアーノは会期終了までその役割を担う。コーディネーターと副コーディネーターの次回更新は、2020年の年次総会で組織される予定である。

7. 加盟都市は3のモニタリングエクセサイズを経た後、2004年から2013年の間に加入した加盟都市により、全部で41のモニタリングレポート（MMRs）が提出される点に留意する。全てのレポートは現在UCCNのウェブサイト上で閲覧可能である。次のエクセサイズでは、28のMMRsが11月末までに予測される。エクセサイズのスケール育成が期待できる場合、事務局はネットワークのモニタリングレポート活動の改善を続けるため、他の方法を模索する議論と協議を主導していく。
8. ネットワークは、より持続可能でバランス良い成長を構築する方に向かうための努力を続ける。この点において、直近の年次総会で認定都市により採択された指定プロセスの大きな変更は2019年に向けての次回の認証要求として実行され、限られた2都市のみ（2つの異なる創造分野によって指定を受けなければならない）国により認定を受ける。
9. 2017年にフランスのアンギャン・レバンでの年次総会で発表されたUCCN市長らの声明は、この度の年次総会に参加の市長らにより、持続可能な開発戦略を彼らの都市で成し遂げるという確固たる誓約と同様、UCCNの継続的な確約が説明され、見直された。
10. 昨年任意の貢献メカニズムの導入後、7つの認定都市（アハサー、成都、デニア、ダニーデン、ガズィアンテプ、利川、サンタフェ）は、UCCN開発支援のための自発的な財政的貢献を行った。ユネスコを代表し、事務局はこれらの都市に感謝の意を表明し、より多くの加盟都市に先例への追随を推奨する。
11. 以上を鑑みた上で、ネットワークが予算外のプログラムであるとすると、加盟都市はその発展と持続性を確実にするため、UCCNに対する財政的な貢献が求められることが確認できる。新たな財政的メカニズムは、結論のポイント16で述べたとおり、世界中で自治体メカニズムにおいて反映され、さらにその一部として開発される。
12. 次のUCCN年次総会は、“理想の都市 ‘The Ideal City’ ”のテーマの下で、2019年6月5日から6月10日までのイタリアのファブリアーノでの開催が现阶段でプログラムされている。2020年開催都市の選抜は、この度の年次総会中にすでに選ばれた3の候補都市によるプレゼンテーションを経た2018年の会議後、事務局によってオンラインで組織される。
13. 加盟都市と事務局は、認定都市間、団体間、また事務局とコーディネーター間での、スカイプやその他のオンラインツールを使った方法を含むシステム化された定期的なコミュニケーションの重要性に同意した。
14. 急速に活動の幅が広がり、多様性に富み、またそれに伴って集められる情報やデータを利用するため、事務局はネットワークの中で様々な新構想に着手している。例えば、持続可能な開発において、文化が

担う重要な役割を評価するためにユネスコが世界的に実施している取り組みに対して、UCCNが行っている貢献やLAB.2030などがその例である。多くの加盟都市は、すでにこれらの新構想に加わっており、地域的・国際的な活動、実施、事例について貴重なデータを提供することで貢献している。

15. 国連組織において、文化に関するユネスコ独自の役割だけでなく、ユネスコが持つ情報伝達手段や情報網の強みを生かし、国際的な舞台でネットワークの知名度を上げる機会を得るため、事務局は献身的な姿勢を続ける。したがって事務局は、ネットワークが最良の経験や実施を行うよう引き続き促す一方で、関連都市に国際的な活動やイベントにおいてユネスコに参加するよう強く求める。加盟都市は事務局の尽力に感謝し、この目的のために事務局から助力や情報提供の求めがあれば積極的に応じる。次の機会としては、7月にニューヨークで開催される「ハイレベル政治フォーラム」がそれにあたる。
16. 加盟都市で共有されているUCCNを統合する組織のビジョンにより、UNESCOユネスコはその基盤を固め、文化的推進力に資する持続可能な開発の世界的成功の推進のため、新たなガバナンスメカニズムの発展について意見交換を行う。この提案は近いうちに事務局により行われる。反省点としての、構造、プログラミング、そして財政における持続性への問題は、認定都市の誓約とネットワークへの参加モニタリングと同様に対処されるだろう。

(2) 第12回ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会 プログラム

ユネスコ UCCN HP “XII Annual Meeting of the UNESCO Creative Cities Network Krakow & Katowice (Poland), 12-15 June 2018” を和訳したもの

https://en.unesco.org/creative-cities/sites/creative-cities/files/xii-uccn-am_agenda_eng_final.pdf (最終確認：平成31年2月28日)

(3) 第12回ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会 結論

ユネスコ UCCN HP “Conclusions of the XIIth Annual Meeting of the UNESCO Creative Cities Network” を和訳したもの

https://en.unesco.org/creative-cities/sites/creative-cities/files/uccn-2018-am_conclusions_en_final.pdf (最終確認：平成31年2月28日)